

「文化芸術活動に携わる方々へのアンケート」の調査結果

2020年12月25日
文化庁文化経済・国際課

1. 本アンケート調査について

○調査概要

目的	文化芸術の担い手である芸術家等の実態を捉え、「新たな生活様式」のもとでの芸術家等の活動基盤を強化していくため、新型コロナウイルス感染症の影響と活動実態を捉えることを目指す。
対象	文学、音楽、美術・写真・デザイン、演劇・舞踊、メディア芸術、伝統芸能、大衆芸能、生活文化・国民娯楽などの分野の活動に関わる芸術家、実演家、教授・指導者、制作・技術スタッフ
期間	令和2(2020)年9月30日～10月13日(14日間)
手法	文化庁ホームページ上のオンラインフォームおよびLINEアンケート
周知方法	文化庁ホームページでの周知、関係文化芸術団体への協力依頼
有効回答	17,196件(うち、オンラインフォーム14,999件、LINE2,197件)※ ¹

○調査項目

- (1) 新型コロナウイルス感染症の影響
 - 1 新型コロナウイルス感染症の影響による環境の変化
 - 2 令和2年3～8月の文化芸術活動による収入の変化
 - 3 令和2年3～8月の文化芸術活動以外からの収入の変化
 - 4 不安に感じていること
 - 5 政府の支援制度の利用状況
- (2) 新型コロナウイルス感染症以前の文化芸術活動状況と今後の課題
 - 6 文化芸術の活動領域
 - 7 文化芸術活動の主な取り組み
 - 8 依頼者や雇用主との関係
 - 9 問題があった際の対処方法
 - 10 文化芸術活動の契約状況
 - 11 文化芸術活動において所属する組織等状況
 - 12 文化芸術活動の継続に必要なこと
 - 13 文化芸術活動における課題
 - 14 将来への提言(自由記述)
- (3) 回答者属性
 - 15 年齢
 - 16 収入に占める文化芸術活動の割合

※1 本調査では、アンケートの回答のしやすさを最優先したため、必須回答の項目がない。そのため、欠損値(無回答)が目立つ項目もある。分析は無回答を除外して計算しているため、各設問の回答者の合計が17,196件とはならない。

2. 調査結果

○回答者属性

①年齢（質問 15）

「30歳～40歳未満」と回答した者は35.1%、次いで、「20歳～30歳未満」と回答した者は30.8%、「40歳～50歳未満」と回答した者は20.7%であった(図 1-1)。

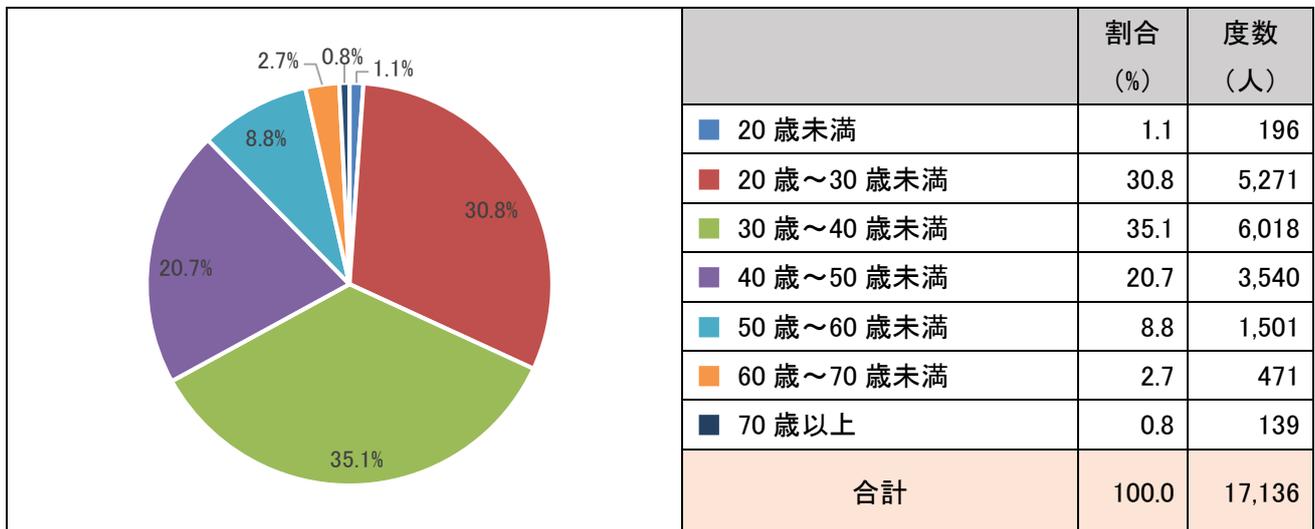


図 1-1 質問 15 年齢

②収入に占める文化芸術活動の割合（質問 16）

「文化芸術活動から収入の75%～100%を得ている」と回答した者は38.9%、次いで、「文化芸術活動からその収入の0～25%を得ている」と回答した者は32.2%、「文化芸術活動から収入の25～50%を得ている」と回答した者は15.5%であった(図 1-2)。

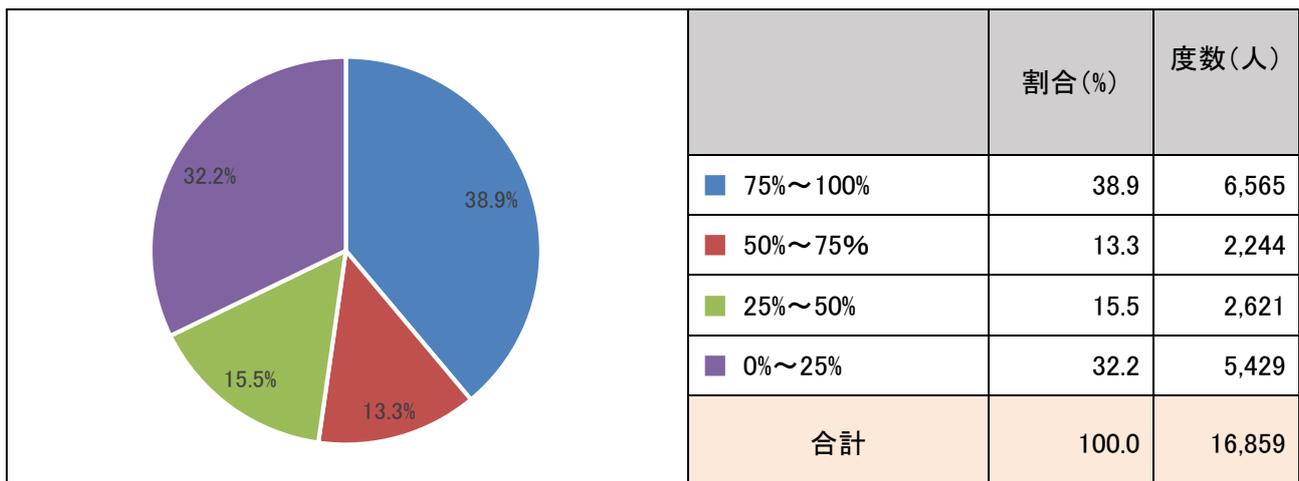


図 1-2 質問 16 収入に占める文化芸術活動の割合

○新型コロナウイルス感染症の影響

①新型コロナウイルス感染症の影響による環境の変化

質問 1 新型コロナウイルス感染症の影響により、ご自身の活動において起こった環境変化を教えてください。(複数選択可)

- 1 文化芸術活動に関して既に決まっていた仕事の機会がなくなった(中止・延期された)
- 2 文化芸術活動に関して将来取り組む予定の仕事の見通しが立たなくなった
- 3 ご自身や家族等の健康状態の悪化等により、文化芸術活動に取り組めなくなった
- 4 やむなく文化芸術活動に関わる施設、備品・用具を手放した
- 5 オンラインでの配信活動など今までと異なる仕事の方法に取り組むことになった
- 6 文化芸術活動以外の活動で生計を立てざるを得なくなった
- 7 文化芸術活動の継続を断念した

新型コロナウイルス感染症の影響により「既に決まっていた仕事の機会がなくなった(中止・延期された)」と回答した者は 79.8%、次いで、「将来取り組む予定の仕事の見通しが立たなくなった」と回答した者は 62.8%、「オンラインでの配信活動など今までと異なる仕事の方法に取り組むことになった」と回答した者は 56.9%であった(図 2-1)。

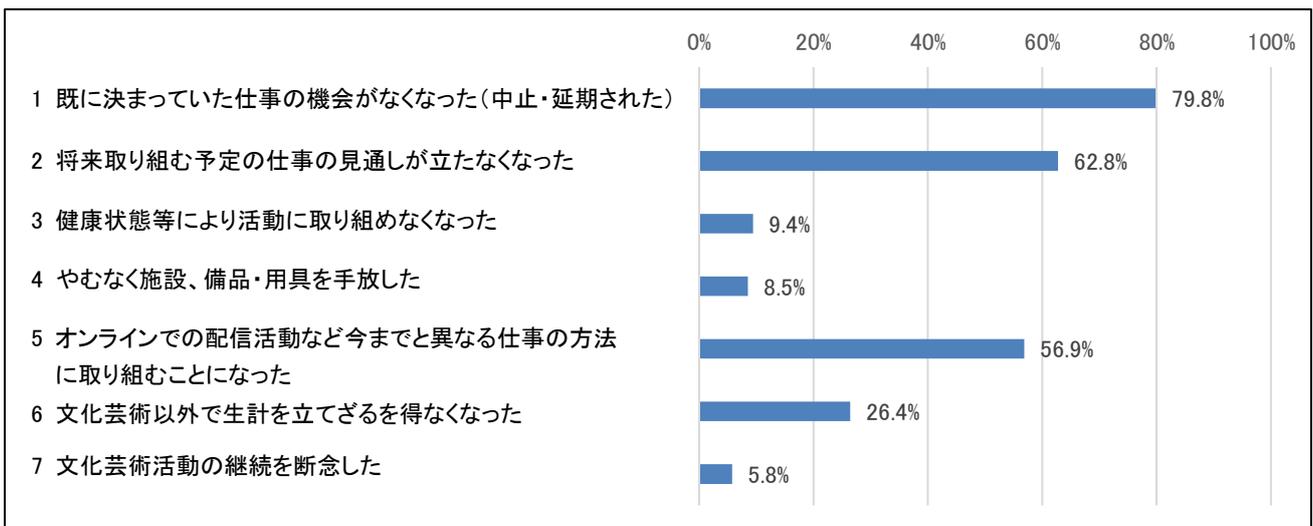


図 2-1 質問 1 新型コロナウイルス感染症の影響による環境の変化

②令和2年3～8月の文化芸術活動による収入の変化

質問2 今年(2020年)の3月から8月の6ヶ月間、文化芸術活動からの収入状況をお知らせください。

- 1 文化芸術活動からの収入は増えた
- 2 文化芸術活動からの収入はあまり変わらない
- 3 文化芸術活動からの収入は75%程度になった
- 4 文化芸術活動からの収入は50%程度になった
- 5 文化芸術活動からの収入は25%程度になった
- 6 文化芸術活動からの収入はほぼ0%になった

「文化芸術活動からの収入はほぼ0%になった」と回答した者は40.1%、次いで、「文化芸術活動からの収入が25%程度になった」と回答した者は22.1%、「文化芸術活動からの収入が50%程度になった」と回答した者は14.9%であった(図2-2)。

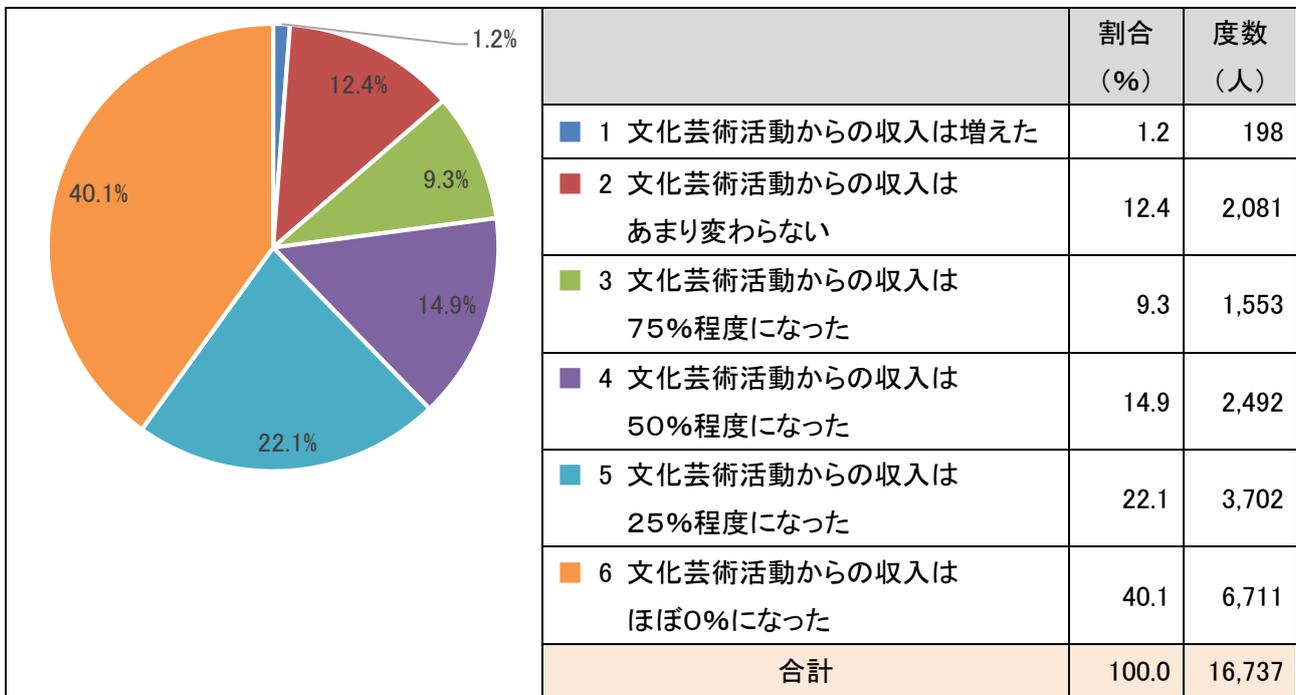


図2-2 質問2 令和2年3～8月の文化芸術活動による収入の変化

③令和2年3～8月の文化芸術活動以外からの収入の変化

質問3 今年(2020年)の3月から8月の6ヶ月間、文化芸術活動以外から収入状況をお知らせください。

- 1 文化芸術活動以外からの収入は増えた
- 2 文化芸術活動以外からの収入はあまり変わらない
- 3 文化芸術活動以外からの収入は減った
- 4 もともと文化芸術活動以外の仕事はしていない

「文化芸術活動以外からの収入はあまり変わらない」と回答した者は31.6%、次いで、「もともと文化芸術活動以外の仕事はしていない」と回答した者は31.3%、「文化芸術活動以外からの収入は減った」と回答した者は27.9%であった(図2-3)。

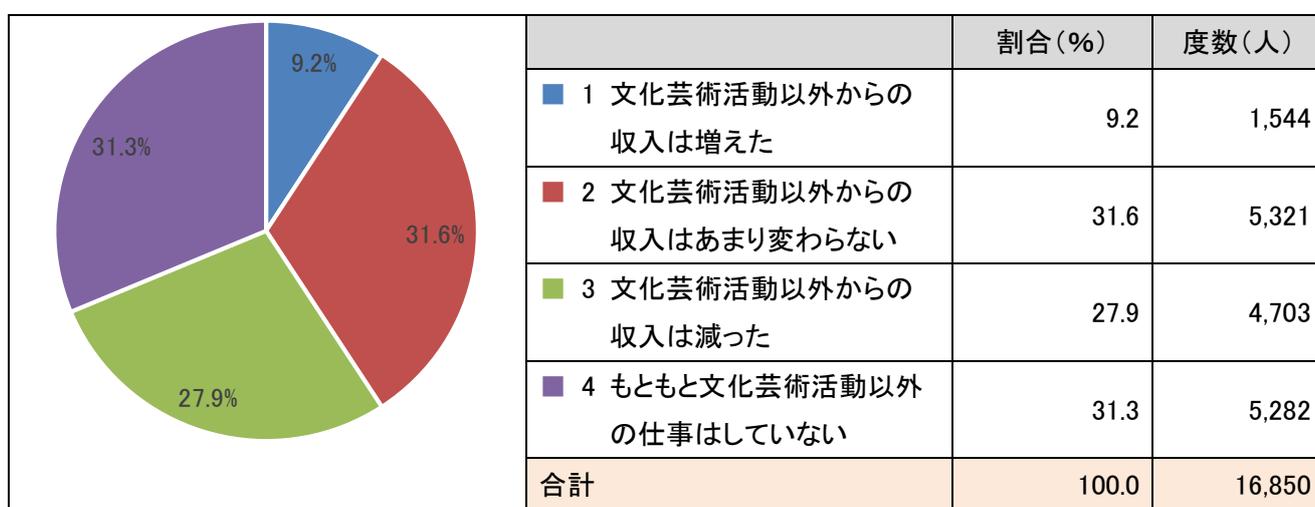


図2-3 質問3 令和2年3～8月の文化芸術活動以外からの収入の変化

④不安に感じていること

質問 4 今(2020年9月)時点で最も不安に感じていることを教えてください。

- 1 自分あるいは世帯主の収入が著しく減少している中で、生計を維持できるかどうか不安
- 2 自ら行う公演・展示等の機会が失われ、先の見通しも立たず、文化芸術活動をこの先続けられるかどうか不安
- 3 所属先、得意先の経営が立ち行かなくなり、その結果自分の活動が続けられなくなるのではないかと不安
- 4 文化芸術活動に関わる施設の閉鎖等が続き、業界全体として明るい見通しが立たないことへの不安
- 5 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、不景気が到来して生活が苦しくなることへの不安
- 6 はっきりと原因はわからないが、漠然とした不安
- 7 特に不安に感じていることはない

「業界全体として明るい見通しが立たないことへの不安」と回答した者は 23.7%，次いで、「生計を維持できるか不安」と回答した者は 22.3%，「文化芸術活動をこの先続けられるか不安」と回答した者は 19.2%となった(図 2-4)。

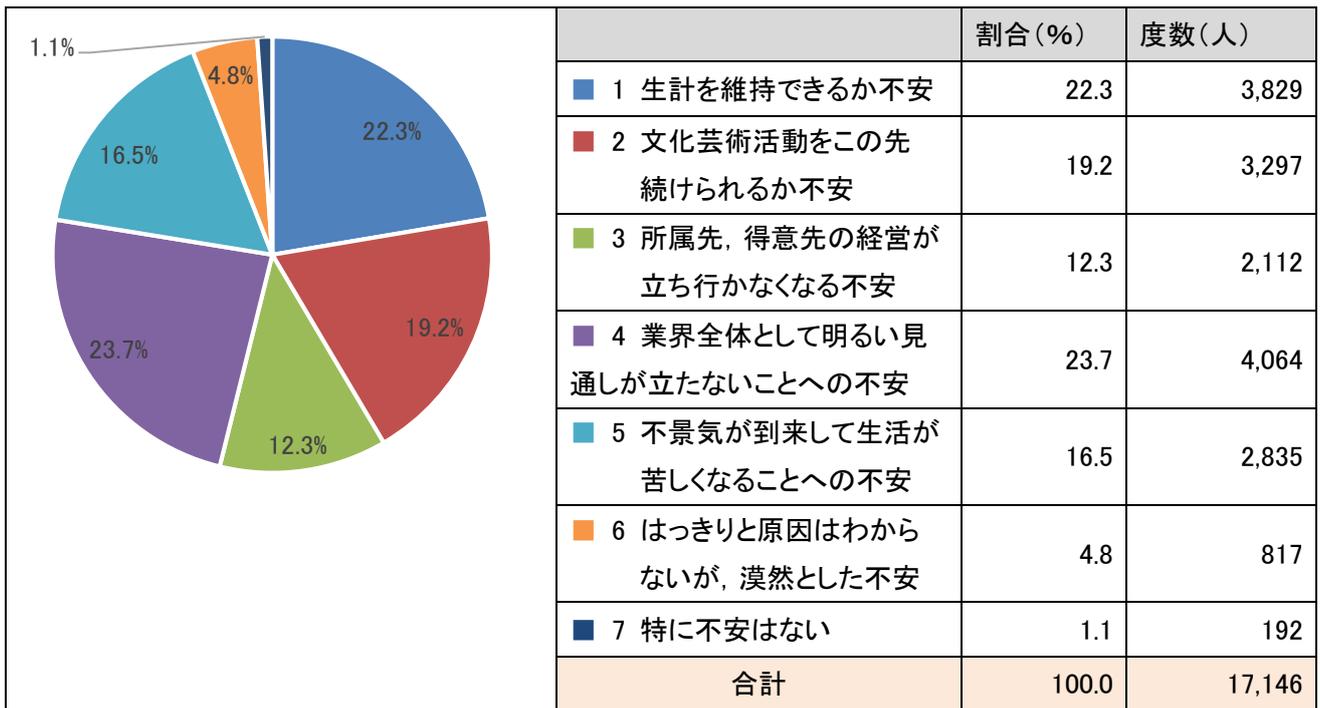


図 2-4 質問 4 不安に感じていること

⑤政府の支援制度の利用状況

質問5 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として政府は以下の制度を設けていますが、利用した制度をお知らせ下さい。(複数選択可)

- 1 中小事業者への持続化給付金(経済産業省)
- 2 文化芸術活動の継続支援事業(文化庁)
- 3 特別定額給付金(総務省)
- 4 個人向け緊急小口資金等(総務省)
- 5 家賃支援給付金(総務省)
- 6 制度内容は知っているが申請はしていない
- 7 このような制度は知らない

「中小事業者への持続化給付金」、「特別定額給付金」と回答した者は33.5%、次いで、「制度内容は知っているが申請はしていない」と回答した者は31.1%、「文化芸術活動の継続支援事業」と回答した者は30.5%であった(図2-5)。

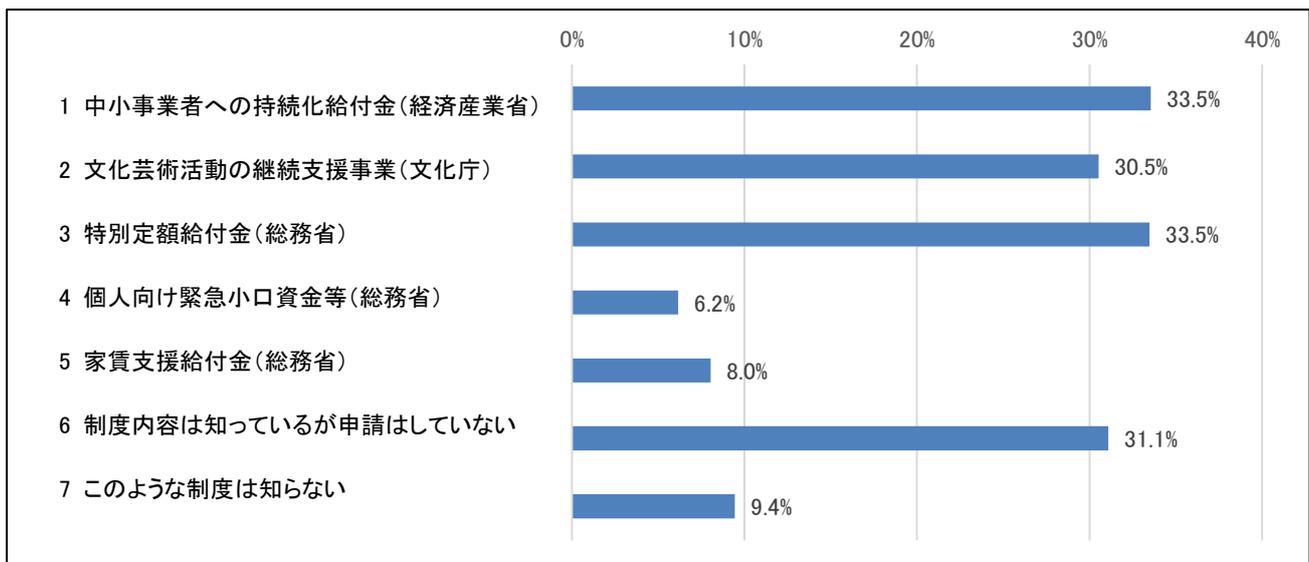


図2-5 質問5 政府の支援制度の利用状況

○新型コロナウイルス感染症以前の文化芸術活動状況と今後の課題

①文化芸術の活動領域

質問 6 文化芸術の活動領域を教えてください。(複数選択可)

- 1 文学
- 2 音楽
- 3 美術・写真・デザイン
- 4 演劇・舞踊
- 5 メディア芸術(映画, 漫画, アニメーションなど)
- 6 伝統的な芸能(雅楽, 能楽, 文楽, 歌舞伎, 組踊, 邦楽など)
- 7 芸能(講談, 落語, 浪曲, 漫談, 漫才, 歌唱など)
- 8 生活文化・国民娯楽(茶道, 華道, 書道, 食文化, 囲碁・将棋など)
- 9 公演, 展示, 映画・映像等に係る専門分野(演出, 監督, 振付, デザイン, 大道具, 照明, 音響, 制作等)
- 10 その他

「メディア芸術」と回答した者は 31.9%, 次いで、「音楽」と回答した者は 30.1%, 「美術・写真・デザイン」と回答した者は 26.9%であった(図 2-6)。

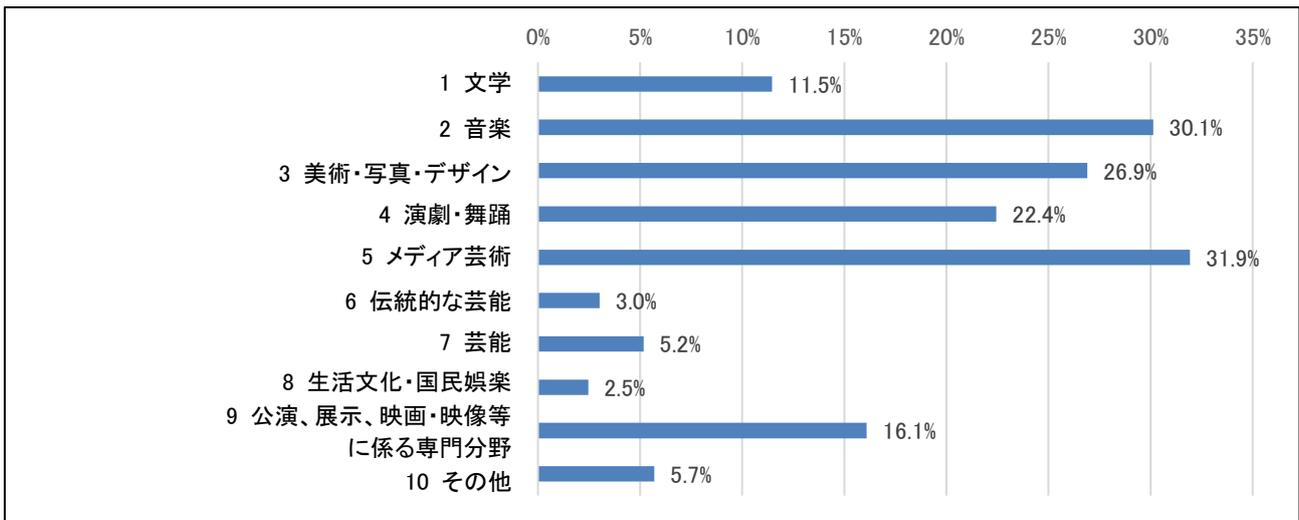


図 2-6 質問 6 文化芸術の活動領域

②文化芸術活動の主な取り組み

質問7 あなたの文化芸術活動の主な取り組み方を教えてください。

- 1 個人として主に団体・会社や主催者に仕事を依頼され文化芸術活動を行っている
- 2 個人として主に自ら企画・制作し文化芸術活動を行っている
- 3 文化芸術団体等に年間雇用され文化芸術活動を行っている
- 4 文化芸術関係の団体・会社を経営し、文化芸術活動を行っている
- 5 文化芸術関係以外の会社等に雇用されているが、文化芸術活動を行っている
- 6 文化芸術関係以外の会社等を経営しているが、文化芸術活動を行っている
- 7 その他

「個人として団体・会社等に仕事を依頼され活動」と回答した者は43.1%、「個人として自ら企画・制作し活動」と回答した者は35.5%、「文化芸術活動以外の会社等に雇用されているが、文化芸術活動を行っている」と回答した者は8.4%であった(図2-7)。

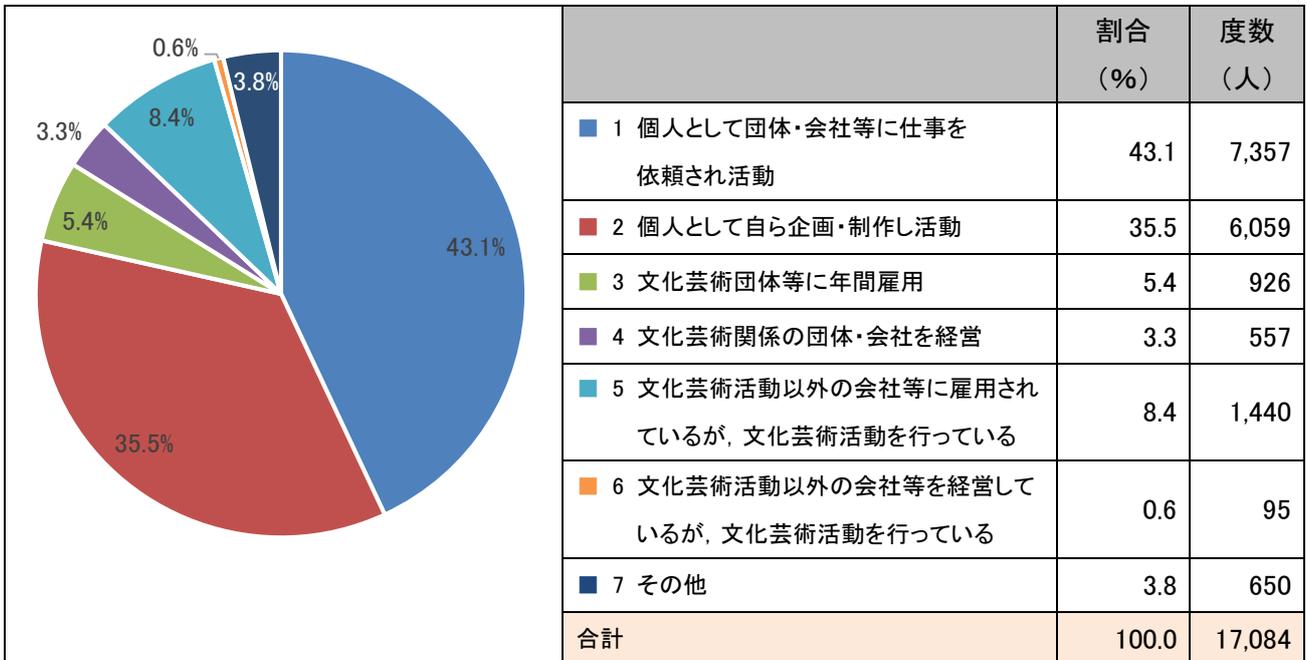


図2-7 質問7 文化芸術活動の主な取り組み

③依頼者や雇用主との関係

質問 8 これまで依頼者や雇用主との関係で以下のようなことがありますか。

- 1 依頼を受ける際に報酬や仕事に係る内容について明示されていなかった
- 2 報酬(給与)の支払いが遅れた, 期日に支払われなかった
- 3 報酬(給与)の未払いや一方的な減額があった
- 4 仕事に係る内容を一方的に変更させられた
- 5 仕事に係る内容について揉めた
- 6 報酬(給与)が低すぎるなど不利な条件での仕事の受託を求められた
- 7 特にない

「特にない」と回答した者は 43.5%, 次いで、「報酬や仕事内容が明示されていなかった」と回答した者は 19.6%, 「報酬(給与)が低すぎるなど不利な条件での仕事の受託を求められた」と回答した者は 13.3%であった(図 2-8)。

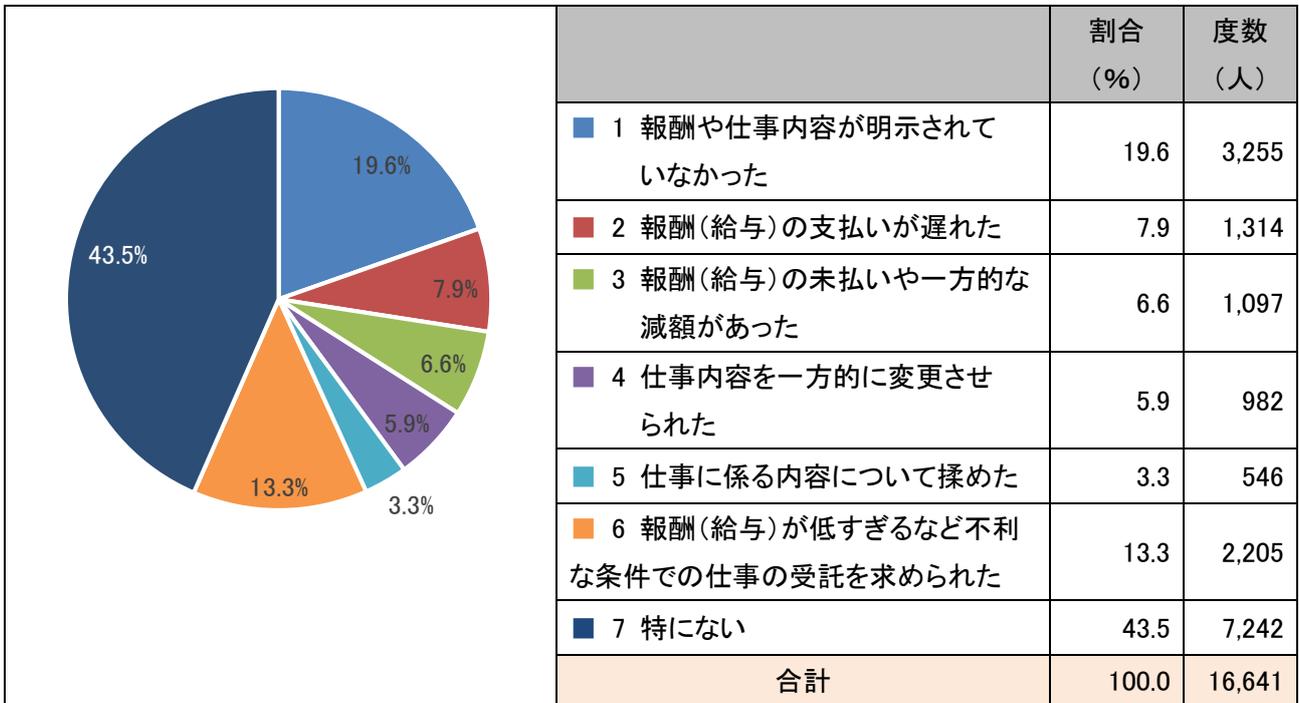


図 2-8 質問 8 依頼者や雇用主との関係

④問題があった際の対処方法

質問9 質問8で1～6を選択した方に伺います。その時にどのように対処しましたか。(複数選択可)

- 1 依頼者(雇用主)と直接交渉した
- 2 今後の活動に支障をきたすことを恐れ、交渉せずに受け入れた
- 3 依頼内容が成立しないと考え、交渉せずに依頼を受けなかった
- 4 弁護士、仲介事業者など第三者を通じて交渉した
- 5 その他

質問8で1～6と回答した者のうち、「今後の活動に支障をきたすことを恐れ、交渉せずに受け入れた」と回答した者は50.9%、次いで、「依頼者(雇用主)と直接交渉した」と回答した者は45.8%、「依頼内容が成立しないと考え、交渉せずに依頼を受けなかった」と回答した者は14.3%であった(図2-9)。

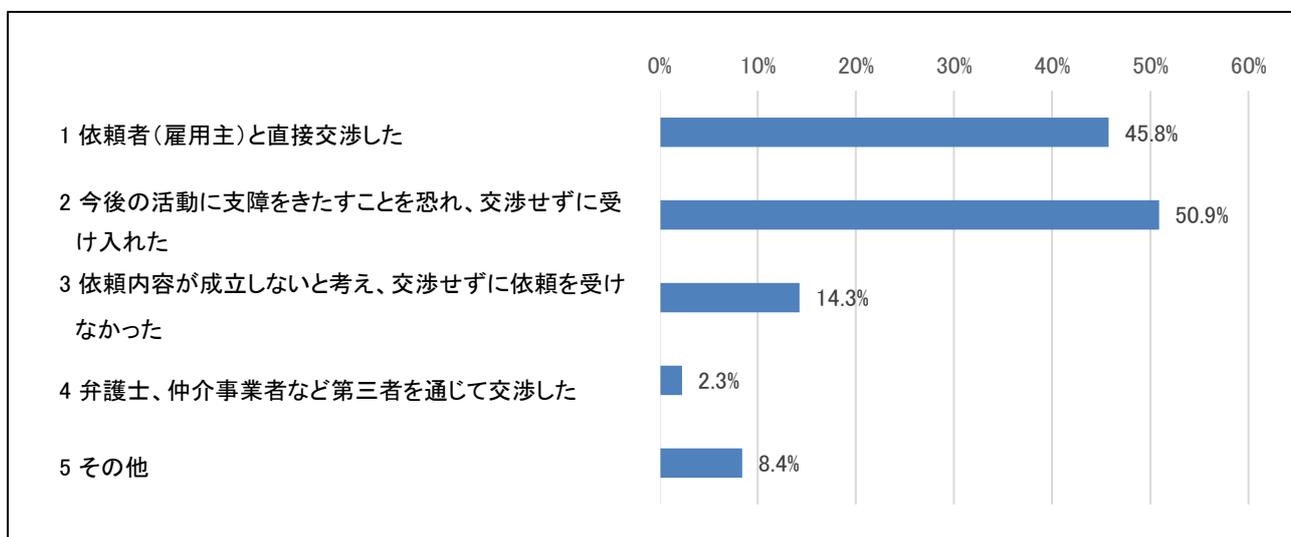


図2-9 質問9 問題があった際の対処方法

⑤文化芸術活動の契約状況

質問 10 文化芸術を行う団体・企業、個人事業者との契約等に当たって、以下のような書面のやり取りはしていますか。

10-1（個人として活動されている方）

- 1 業務委託契約書
- 2 報酬・給与に関する支払調書
- 3 業務に関する依頼書
- 4 特に文書のやり取りはなくメールのやり取りしかない
- 5 特に文書のやり取りはなく電話・対面での口頭でのやり取りしかない

10-2（雇用されている方）

- 1 雇用契約書
- 2 労働条件通知書
- 3 就業規則
- 4 特に文書のやりとりはない

(10-1)

個人として活動されている方のうち、「特に文書のやり取りはなくメールのやり取りしかない」と回答した者は46.8%、次いで、「報酬・給与に関する支払調書」と回答した者は17.9%、「特に文書のやり取りはなく電話・対面での口頭でのやり取りしかない」と回答した者は16.0%、「業務委託契約書」は12.7%であった(図 2-10)。

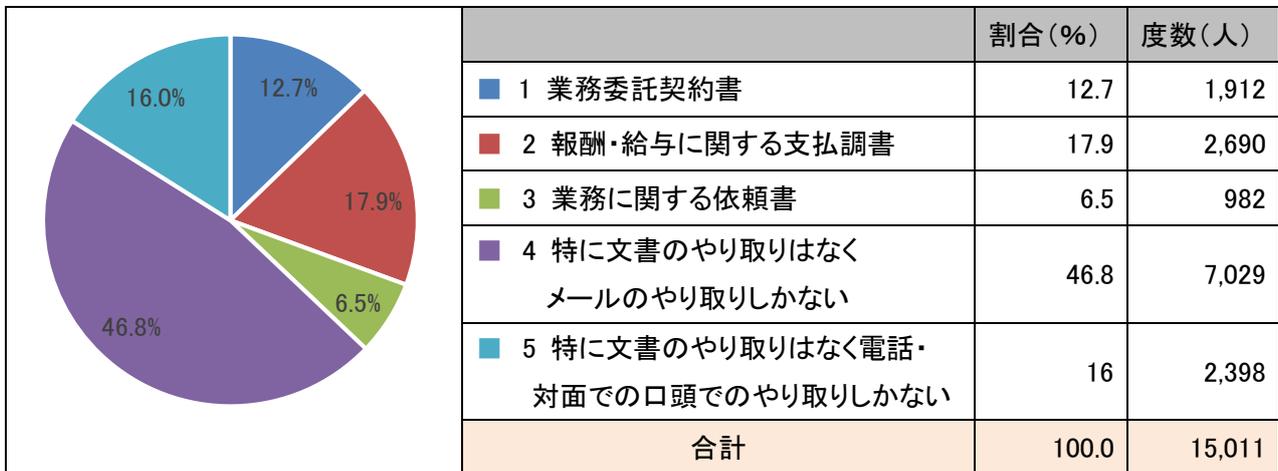


図 2-10 質問 10-1 文化芸術活動の契約状況(個人)

(10-2)

雇用されている方のうち、「特に文書のやりとりはない」と回答した者は 59.3%，次いで、「雇用契約書」と回答した者は 28.2%，「就業規則」と回答した者は 9.4%であった(図 2-11)。



図 2-11 質問 10-2 文化芸術活動の契約状況(雇用者)

⑥文化芸術活動において所属する組織等の状況

質問 11 あなたは文化芸術活動を続ける上で必要な組織に参加，所属あるいは業務委託をしていますか。

- 1 専門職能の維持・向上，文化芸術の振興を目的とする協会組織
- 2 劇団，楽団，舞踊団，同人会など文化芸術創造活動を進める組織
- 3 個人の仕事を紹介・仲介・プロモートするプロダクション・事務所
- 4 個人マネージャー，弁護士などを依頼している
- 5 全て個人で仕事をしている

「全て個人で仕事をしている」と回答した者は 69.8%，次いで，「劇団，楽団，舞踊団，同人会など文化芸術創造活動を進める組織」と回答した者は 10.9%，「個人の仕事を紹介・仲介・プロモートするプロダクション・事務所」と回答した者は 9.4%であった(図 2-12)。

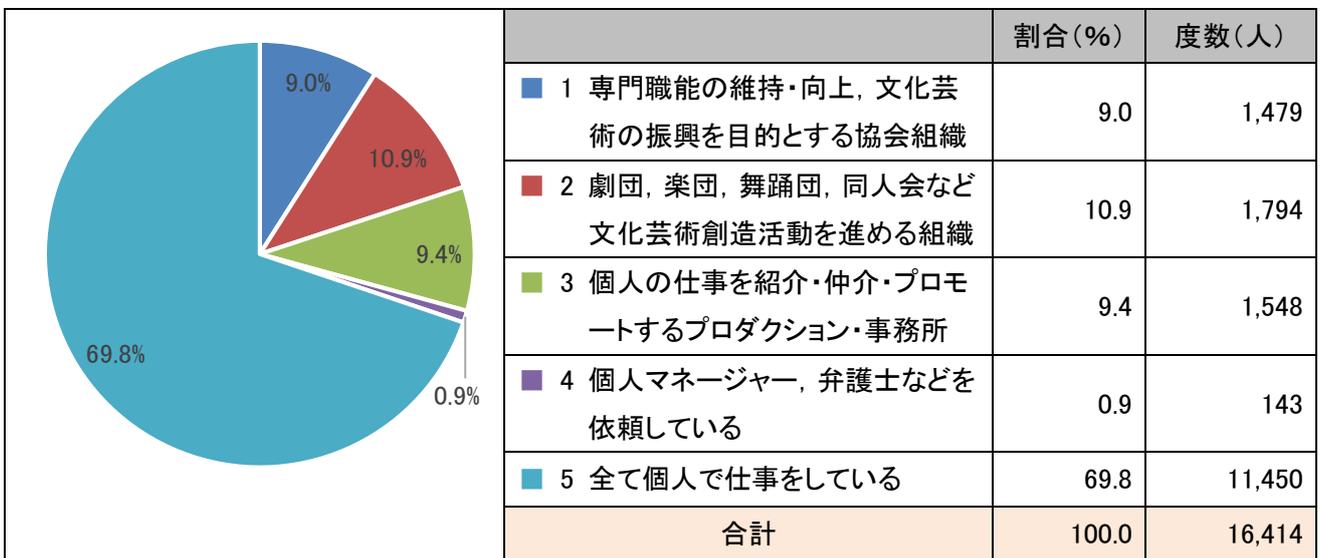


図 2-12 質問 11 文化芸術活動において所属する組織等の状況

⑦文化芸術活動の継続に必要なこと

質問 12 あなたが文化芸術活動を続ける上で、今、必要なことを3つ教えてください。

- 1 文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成
- 2 生計維持に使用できる用途を問わない給付金
- 3 利用しやすい低利または無利子の貸付金
- 4 仕事が失われた場合でも一定期間生活が保障されるセーフティネットの構築
- 5 文化芸術活動を維持・継続するための情報提供
- 6 新型コロナウイルス感染状況に対応した文化芸術活動の再開
- 7 特に支援の必要はない

「用途を問わない給付金」と回答した者は 75.4%、次いで、「費用に対する金銭的な補助・助成」と回答した者は 67.5%、「新型コロナウイルス感染状況に対応した文化芸術活動の再開」と回答した者は 49.5%であった(図 2-13)。

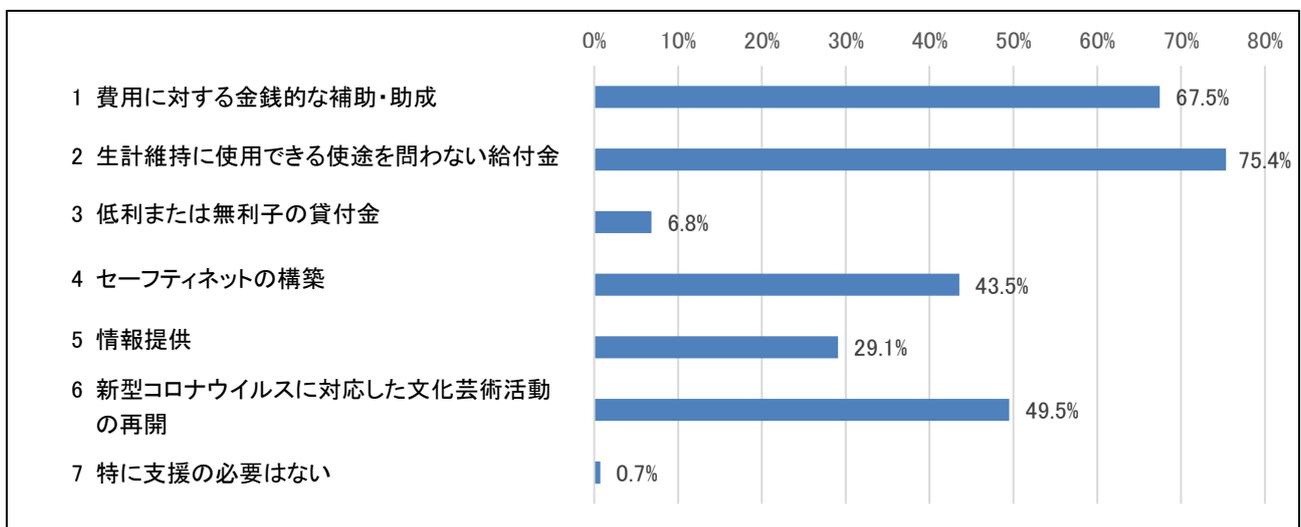


図 2-13 質問 12 文化芸術活動の継続に必要なこと

⑧文化芸術活動における課題

質問 13 以下の課題のうち、あてはまるものを教えてください。(複数選択可)

- 1 契約に係る揉め事、ハラスメントなどのトラブルに関する相談窓口がない
- 2 仕事が不定期、断続的で不安定であり失業など仕事上の変化を緩和する仕組みがない
- 3 仕事上の怪我・死亡などの仕事に起因するリスクを補償する仕組みがない
- 4 仕事の技能・能力向上、職能転換・移転に関する仕組みがない
- 5 感染症発生・事故・災害に伴う仕事の中止に係る保険制度がない
- 6 病気・怪我などライフリスクに係る保険制度がない
- 7 出産・育児・介護などの生活保障の仕組みがない
- 8 老後に備えるための年金制度が十分ではない

「失業など仕事上の変化を緩和する仕組みがない」と回答した者は 53.9%，次いで、「老後に備えるための年金制度が十分ではない」と回答した者は 50.0%，「仕事の中止に係る保険制度がない」と回答した者は 49.2%であった(図 2-14)。

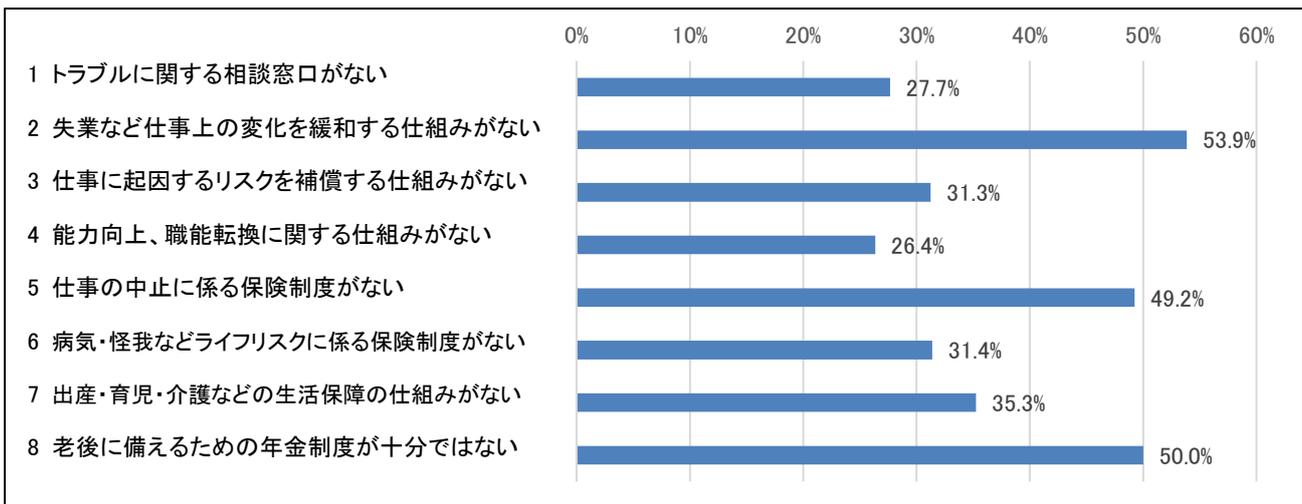


図 2-14 質問 13 文化芸術活動における課題

⑨自由記述による文化芸術活動を続けていくうえでの課題点

質問 13-9 その他, 文化芸術活動で直面した課題について教えてください(自由記述)

質問 14 文化庁では芸術家等の活動基盤を強化していくための取り組みを進めたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の影響なども踏まえ、あなたが文化芸術活動に取り組むにあたって感じられている課題や改善してほしい制度的な課題について、ご自由にお書きください。

質問 13-9 で文化芸術活動を行う上で直面した課題について自由記述による回答を募集したところ、2,394 件の回答が得られた。また、質問 14 で文化芸術活動の課題、今後の改善点等について自由に記述してもらったところ、6,126 件の回答があった。両者は質問も回答も重複している部分が多かったため、あわせて、以下に挙げた観点で、いただいたご意見の例をいくつか挙げる。

(1)新型コロナウイルスの影響について

- ・演奏会の自粛により、関連業者は仕事が皆無になった。死活問題である。
- ・活動継続のためには支援金も必要だが、現状では生活が不安定であり、活動は難しい。給付金が必要である。
- ・これまで興行会社から口約束で仕事を受けてきた。今回のコロナ禍で契約も補償もなく、収入が途絶えた。
- ・給付金等で今年いっぱいの家賃は確保したが、既存の仕事は全てキャンセルの上、新たな仕事が全く入ってこない中、来年以降の家賃や生活費をどうしたら良いのか途方に暮れている。
- ・活動の場が失われているのが問題。オンラインでもできることはあるが、演劇の表現は空間を共にすることに本質があるので限界がある。人数制限や風評被害など、このままの状況がいつまで続くのか不安。
- ・どれだけ対策を立てても人数制限もあり集客は半分以下しかできず、今後の活動の見通しが立たない。予定が立たないと活動できず、支援の対象外となってしまう。芸術家等への直接的な支援金が必要。
- ・コロナが原因でイラスト制作会社を解雇されフリーランスになったが、持続化給付金は以前からフリーランス活動をしていないと受け取れず困っている。
- ・在宅での仕事のため、今回のコロナのような状況で、子どもの保育所・学校が休校になってしまい、仕事が全くできなくなってしまった。

(2)文化芸術分野の活動実態について

- ・感染症でスケジュールが変わり、次の仕事を入れられなくなった時の補償がない。また、拘束時間が増えてもギャラは増えない。
- ・仕事が先方都合でキャンセルになった場合のキャンセル料の取り決めがない。
- ・仕事を発注する側も受ける側も法律を守る意識が低い。事後の減額要求や急な解雇、高所作業等、安全性を担保しないで行なっている。
- ・日本では文化に対する予算が他国に比べて少なすぎる。今後、最低限の生活も危うい状況である。
- ・業界の活動を守るため、団体を設立したが、サポートがなく、維持が難しくなっている。
- ・芸術活動をするために芸術以外の仕事をせざるを得ない状況がある。コロナの状況において芸術活動以外の収入が減った場合の経済的な対策がなかった。

- ・文化芸術活動に関する個人事業主と申告した場合の社会的地位が低く、クレジットカードの作成や転居等の手続きが行えない、あるいは時間がかかり過ぎる事が多い。
- ・賃金が安く仕事の依頼も口約束が多い。
- ・同じ仕事をしていても男性より女性の方が、報酬が少ない。
- ・稽古期間、リハーサル期間は無報酬である。交通費や諸経費が全く出ない所も多い。雇用、保険等々、契約にかかるサポートが必要。

(3)文化芸術活動において必要な改善点について

- ・コロナの影響と言われ、キャンセル料をいただけないことがある。やむなく受け入れているが、実際はスケジュールの確保等、コストが発生しており、収入にも大きく影響する。
- ・就業規則や労務管理等、文化芸術団体も十分なレベルにあるのか、調査し、改善すべきである。
- ・様々なアーティストが安心して生活し芸術活動に取り組める環境こそが日本の文化芸術の発展に必要。根本的な改革と労働環境の改善は芸術活動以前の問題。
- ・公民館のような公共の施設の企画運営のため、企画力、文化芸術への理解のある職員の養成、採用に力を入れてほしい。
- ・安価で借りることができる施設等、あるいは、借りる際の補助があれば、支出を抑えられ、チケット代も下げられる。活動を維持するため、各地の劇場等への支援が必要。
- ・学校での文化活動が再開するため、国として子供の教育に文化芸術が必要だということを明言してほしい。
- ・文化芸術を守るために実態と働き方をきちんと把握すべき。怪我や事故など安全管理に問題がある上、ハラスメントや低収入の問題もあり、社会保障制度も整備されていない。メンタルケアの意識もない。
- ・芸術家等へのサポートやセーフティネット、契約義務等の社会的制度の整備遅れなど問題が多い。
- ・稽古場の維持費への補償、会場費の減免、減収分の補填及び文化向上の一端を担うアマチュアへの支援もお願いしたい。
- ・芸能関係者向けの経理業務デジタル化のサポートや税額控除・助成制度、雇用関係にある協会や事務員、出演者の方々への労働法、労働保険関係の案内や労務管理のデジタル化のサポートや税額控除、助成制度等、芸能関係者と共に制度設計してほしい。
- ・フリーランスは若手を育てる金銭的余力がない。フリーランスを目指す若者向けの補助金等があるといい。
- ・コロナ禍で活動を継続するための支援策や感染症対策など、正しい情報提供、アーティストへの勉強会等をお願いしたい。
- ・入場料の補助など、都会でなくても芸術に触れられる機会を増やしてほしい。
- ・商業的な文化芸術だけでなく、伝統的な芸術も生活に浸透させるような政策をしてほしい。
- ・文化芸術の地位向上が急務。
- ・文化芸術活動において必要なことは若手に対する補助。生活の基盤ができていない学生～30歳くらいまでが諦めてしまう前に、補助制度の環境整備をしてほしい。

(4)その他

- ・文化庁支援事業について、既に支出したものの支払いができなかったり、支援のハードルが高かったりするので、もっと柔軟にやってほしい。

- ・文化芸術活動に従事する団体が社会保険に加入していないため、持続化給付金に申請できなかった。実際の収入はとても低いのに、不公平である。
- ・今回の文化庁の支援事業は、生活には使えず申請していない人もいる。利用しやすい支援がほしい。
- ・社員として契約している芸術家等への支援がほとんどないのは問題。
- ・今必要なのは補助金ではなく、生活費となる給付金。継続支援の補助金は専業だけでなく、副業としてやっている人も利用しやすい制度とすべき。
- ・コロナの影響は今後も続くので、一回限りではなく、継続的な支援や助成をお願いしたい。
- ・文化庁支援事業は申請が煩雑で決定されるまでに時間がかかる。決定されないと制作に着手できない。撮影には準備期間が必要。早めに決定を出してほしい。
- ・事態が回復して仕事が再開できるまで給付金を支給してほしい。
- ・補助金申請への難易度が高いので、代行業や申請を簡便にするなどのサポート、あるいは、勉強会等が必要。
- ・表現者は生活さえできれば、自ら活動する。芸術活動への支援金ではなく、給付金があったらよかった。

文化芸術活動に携わる方々へのアンケート

注記：「文化芸術活動」とは、ここでは文学、音楽、演劇・舞踊、美術・写真・デザイン、伝統芸能、大衆芸能、メディア芸術、生活文化・国民娯楽などの分野における公演、発表、展示、教授・指導、制作、技術に関わる活動を言います。

「文化芸術活動に関わる施設」とは、劇場、音楽堂、稽古場、スタジオ、教室など規模にかかわらず文化芸術活動に必要な施設を言います。

(1)新型コロナウイルスの影響について教えてください。

1 新型コロナウイルス感染症の影響により、ご自身の活動において起こった環境変化を教えてください。(複数選択可)

- 1 文化芸術活動に関して既に決まっていた仕事の機会がなくなった(中止・延期された)
- 2 文化芸術活動に関して将来取り組む予定の仕事の見通しが立たなくなった
- 3 ご自身や家族等の健康状態の悪化等により、文化芸術活動に取り組みなくなった
- 4 やむなく文化芸術活動に関わる施設、備品・用具を手放した
- 5 オンラインでの配信活動など今までと異なる仕事の方法に取り組むことになった
- 6 文化芸術活動以外の活動で生計を立てざるを得なくなった
- 7 文化芸術活動の継続を断念した

2 今年の3月から8月の6ヶ月間、文化芸術活動からの収入状況をお知らせください。

- 1 文化芸術活動からの収入は増えた
- 2 文化芸術活動からの収入はあまり変わらない
- 3 文化芸術活動からの収入は75%程度になった
- 4 文化芸術活動からの収入は50%程度になった
- 5 文化芸術活動からの収入は25%程度になった
- 6 文化芸術活動からの収入はほぼ0%になった

3 今年の3月から8月の6ヶ月間、文化芸術活動以外から収入状況をお知らせください。

- 1 文化芸術活動以外からの収入は増えた
- 2 文化芸術活動以外からの収入はあまり変わらない
- 3 文化芸術活動以外からの収入は減った
- 4 もともと文化芸術活動以外の仕事はしていない

4 今(2020年9月)時点で最も不安に感じていることを教えてください。

- 1 自分あるいは世帯主の収入が著しく減少している中で、生計を維持できるかどうか不安
- 2 自ら行う公演・展示等の機会が失われ、先の見通しも立たず、文化芸術活動をこの先続けられるかどうか不安
- 3 所属先、得意先の経営が立ち行かなくなり、その結果自分の活動が続けられなくなるのではないかという不安
- 4 文化芸術活動に関わる施設の閉鎖等が続き、業界全体として明るい見通しが立たないことへの不安
- 5 新型コロナウイルス感染症の影響が長期化し、不景気が到来して生活が苦しくなることへの不安
- 6 はっきりと原因はわからないが、漠然とした不安
- 7 特に不安に感じていることはない

5 新型コロナウイルス感染症の影響に対する対策として政府は以下の制度を設けていますが、利用した制度をお知らせ下さい。(複数選択可)

- 1 中小事業者への持続化給付金(経済産業省)
- 2 文化芸術活動への継続支援事業(文化庁)
- 3 特別定額給付金(総務省)
- 4 個人向け緊急小口資金等(総務省)
- 5 家賃支援給付金(総務省)
- 6 制度内容は知っているが申請はしていない
- 7 このような制度は知らない

(2) 新型コロナウイルス感染症の影響を受ける以前のご自身の文化芸術活動の状況と今後の課題等について教えてください。

6 文化芸術の活動領域を教えてください。(複数選択可)

- 1 文学
- 2 音楽
- 3 美術・写真・デザイン
- 4 演劇・舞踊
- 5 メディア芸術(映画, 漫画, アニメーションなど)
- 6 伝統的な芸能(雅楽, 能楽, 文楽, 歌舞伎, 組踊, 邦楽など)
- 7 芸能(講談, 落語, 浪曲, 漫談, 漫才, 歌唱など)
- 8 生活文化・国民娯楽(茶道, 華道, 書道, 食文化, 囲碁・将棋など)
- 9 公演, 展示, 映画・映像等に係る専門分野(演出, 監督, 振付, デザイン, 大道具, 照明, 音響, 制作等)
- 10 その他

7 あなたの文化芸術活動の主な取り組み方を教えてください。

- 1 個人として主に団体・会社や主催者に仕事を依頼され文化芸術活動を行っている
- 2 個人として主に自ら企画・制作し文化芸術活動を行っている
- 3 文化芸術団体等に年間雇用され文化芸術活動を行っている
- 4 文化芸術関係の団体・会社を経営し、文化芸術活動を行っている
- 5 文化芸術関係以外の会社等に雇用されているが、文化芸術活動を行っている
- 6 文化芸術関係以外の会社等を経営しているが、文化芸術活動を行っている
- 7 その他

8 これまで依頼者や雇用主との関係で以下のようなことがありますか。

- 1 依頼を受ける際に報酬や仕事に係る内容について明示されていなかった
- 2 報酬(給与)の支払いが遅れた、期日に支払われなかった
- 3 報酬(給与)の未払いや一方的な減額があった
- 4 仕事に係る内容を一方的に変更させられた
- 5 仕事に係る内容について揉めた
- 6 報酬(給与)が低すぎるなど不利な条件での仕事の受託を求められた
- 7 特にない

9 問8で1～6を選択した方に伺います。その時にどのように対処しましたか。(複数選択可)

- 1 依頼者(雇用主)と直接交渉した
- 2 今後の活動に支障をきたすことを恐れ、交渉せずに受け入れた
- 3 依頼内容が成立しないと考え、交渉せずに依頼を受けなかった
- 4 弁護士、仲介事業者など第三者を通じて交渉した
- 5 その他

10 文化芸術を行う団体・企業、個人事業者との契約等に当たって、以下のような書面のやり取りはしていますか。

10-1 (個人として活動される方)

- 1 業務委託契約書
- 2 報酬・給与に関する支払調書
- 3 業務に関する依頼書
- 4 特に文書のやり取りはなくメールのやり取りしかない
- 5 特に文書のやり取りはなく電話・対面での口頭でのやり取りしかない

10-2（雇用されている方）

- 1 雇用契約書
- 2 労働条件通知書
- 3 就業規則
- 4 特に文書のやりとりはない

11 あなたは文化芸術活動を続ける上で必要な組織に参加，所属あるいは業務委託をしていますか。

- 1 専門職能の維持・向上，文化芸術の振興を目的とする協会組織
- 2 劇団，楽団，舞踊団，同人会など文化芸術創造活動を進める組織
- 3 個人の仕事を紹介・仲介・プロモートするプロダクション・事務所
- 4 個人マネージャー，弁護士などを依頼している
- 5 全て個人で仕事をしている

12 あなたが文化芸術活動を続ける上で，今，必要なことを3つ教えてください。

- 1 文化芸術活動で発生する費用に対する金銭的な補助・助成
- 2 生計維持に使用できる用途を問わない給付金
- 3 利用しやすい低利または無利子の貸付金
- 4 仕事が失われた場合でも一定期間生活が保障されるセーフティネットの構築
- 5 文化芸術活動を維持・継続するための情報提供
- 6 新型コロナウイルス感染状況に対応した文化芸術活動の再開
- 7 特に支援の必要はない

13 以下の課題のうち，あてはまるものを教えてください。（複数選択可）

- 1 契約に係る揉め事，ハラスメントなどのトラブルに関する相談窓口がない
- 2 仕事が不定期，断続的で不安定であり失業など仕事上の変化を緩和する仕組みがない
- 3 仕事上の怪我・死亡などの仕事に起因するリスクを補償する仕組みがない
- 4 仕事の技能・能力向上，職能転換・移転に関する仕組みがない
- 5 感染症発生・事故・災害に伴う仕事の中止に係る保険制度がない
- 6 病気・怪我などライフリスクに係る保険制度がない
- 7 出産・育児・介護などの生活保障の仕組みがない
- 8 老後に備えるための年金制度が十分ではない
- 9 その他，文化芸術活動で直面した課題について教えてください

（自由記入： ）

14 文化庁では芸術家等の活動基盤を強化していくための取り組みを進めたいと考えています。

新型コロナウイルス感染症の影響なども踏まえ、あなたが文化芸術活動に取り組むにあたって感じられている課題や改善してほしい制度的な課題について、ご自由にお書きください。

(自由記入 :)

(3) あなた自身のことについて教えてください

15 あなたの年齢について伺います。

- 1 20 歳未満
- 2 20 歳～30 歳未満
- 3 30 歳～40 歳未満
- 4 40 歳～50 歳未満
- 5 50 歳～60 歳未満
- 6 60 歳～70 歳未満
- 7 70 歳以上

16 昨年の「あなた」の全収入に占める芸術活動からの収入の割合を教えてください。

- 1 75%～100%
- 2 50%～75%
- 3 25%～50%
- 4 0%～25%

ご回答ありがとうございました。結果は今後の文化行政施策に活用させていただきます。